

はじけるこころ

Vol.40

まいにち学校 まいにち街 中 こどもの笑顔につなげる

発行 箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会 人権施策課

TEL 072-724-6921
FAX 072-724-6010

E-mail:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp



27年度のテーマ

「あなたならどうする？」

「はじけるこころ」が、幼稚園・保育所・小中学校の保護者の皆様に配布されるようになり2年目を迎えます。今年度は、「あなたならどうする」をテーマにし、人権問題・人権教育を身近な問題であると感じてもらえるような紙面づくりをめざしています。

人権問題や人権教育といわれても、自分は、差別もしないし差別もされないから関係ないと思う方もいらっしやるかもしれません。しかし、人権問題・人権教育は、差別する人・差別される人だけの問題ではありません。いじめを例に考えてみましょう。いじめは、「加害者」と「被害者」だけでなく、「観衆」（はやしたてる子ども）、「傍観者」（見て見ぬふりをする子ども）からなるといわれています（森田洋司2010『いじめとは何か』中公新書）。さらに、「傍観者」のなかには、少数ですがいじめを抑止する「仲裁者」が含まれることもあります。いじめをなくしていくには、「加害者」への指導だけでなく「観衆」や「傍観者」への指導も重要であり、「仲裁者」が増えるような学級環境づくりが求

められるといわれています。いじめは、その学級の子どもたち全ての人間関係に関わる問題であり、その解決も全ての子どもたちにかかっています。したがっていじめ問題の指導は、いじめを許さない「道徳教育」であるとともに、いじめを生み出す構造に注目し、その構造を組み替えることでもあるのです。

また、人権の問題は、社会の仕組みの問題でもあります。社会の仕組みは、様々な境遇にある私たち一人ひとりが、自分の望む生き方を追求するのを促してくれたら、逆に妨げる壁になったりします。どんな境遇の人でも生きやすい社会の仕組みとはどんなものかを考えていくことは、自分自身が生きていきやすい道を探ることでもあるのです。

「はじけるこころ」を通じて、保護者の皆様と教職員の間に自分たちの問題として人権問題・人権教育を考える「場」が生まれ、広がっていくことをねらっています。

各記事をお読みになった後、『今、自分はどんなことを感じただろうか』『自分ならどんなことをするだろうか』など、少し立ち止まって考えていただければ幸いです。

（編集委員 若槻健）

もくじ

27年度のテーマ 1

「あなたならどうする？」

イキイキさわやかに学ぶ会 2、3

●報告その1

「携帯・インターネットに潜む危険」

●報告その2

「精神障害を知ろう」思春期・青年期におけるメンタルヘルス

教職員研修「心の教育」 4

「発達障害の理解と対応」

「子どものメンタルヘルスを考える」

学校の取り組み「食育」 5

みんなで協力すれば

楽しくおいしく食べられる！

街の活動紹介 6

ぴあぴあ食堂「らいとぴあ21」

司書さんのおすすめ本 7

「ぼくのニセモノをつくるには」

「意見・感想」 8

みなさんのコトバを送ってください。
用紙がついてます。みなさんお届け
くださいね♪



イキイキさわやかに学ぶ会

◆「携帯・インターネットに潜む危険」

平成27年（2015年）6月5日（金）

会場 メイプルホール 小ホール

講師 N-T情報技術推進ネットワーク（株）

代表取締役 篠原嘉一さん

第1回イキイキさわやかに学ぶ会では、兵庫県警サイバー犯罪・サイバー攻撃対策アドバイザー等、多方面でご活躍されている篠原嘉一さんを講師にお招きし、「携帯・インターネットに潜む危険」についてご講演いただきました。

「携帯、スマホのスイッチは切らないでください！」

と通常の講演ではあまりない話から始まり、インターネット上で「今まさに」起きていることを、その場で会場にいる皆さんと一緒に体験していただきました。例えば「講演会場から2km以内で、いわゆる『出会い系サイト』を今まさに利用している人の映像が簡単に見られる体験」「その『出会い系サイト』を今まさに利用している人がどこにいても、三次元地図上で簡単に特定できる体験」等を行いました。子どもたちがこうしたことからストーカー被害にあったり、個人情報流出やそれに派生するトラブル

ル等にあたりする実例を、数多く紹介してもらいました。その後、トラブル等に対する解決事例も挙げてもらいながら、大人よりも子どもの方が知識や技術が先に進んでいる今の社会において、大人はどのように子どもやネットと関わっていく必要があるか、アドバイスをいただきました。

次に参加者の携帯電話、スマートフォンを実際に操作しながら、個人情報や自動的に流出している仕組み等についての説明も受けました。位置情報や本人のネットアクセス嗜好だけでなく、友人情報、電話番号やメールアドレス、LINE等の情報まで流出している可能性があることを、各自の携帯電話、メールアドレス設定状況をチェックしながら確認しました。そして、



その場で防止対策を実際に一人ひとりが操作をしながら設定していただきました。

さらにSNS等で写真をアップする際の危険性（写真の撮影時間、位置情報等の個人情報流出している現状）や、そこから就職活動、結婚などへの影響も多数出ている事例も紹介されました。

保護者と子どもが深く話し合い、危険性を十分理解した上で、使い方のルールを決める大切さを痛感した講演会でした。

（事務局 五十嵐直人）

◆精神障害を知ろう

～思春期・青年期におけるメンタルヘルス～

平成27年（2015年）7月14日（火）

会場 メイプルホール 小ホール

講師 桃山学院大学 社会学部

教授 栄セツコさん

近年、メンタルヘルスへの関心が高まっています。とはいえ、体の健康のためにラジ体操、スポーツ、健康サプリメント等々を続ける人は多くても、心の健康のために何かしている人は少ないでしょう。また、犯罪率は健常者よりずっと低いのに、精神疾患は怖いなどの偏見もあります。

2011年、厚生労働省は四大疾病としていた、がん、脳卒中、心臓病、糖尿病に



精神疾患を加え、五大疾病として取り組む方針を決めました。うつ病や統合失調症などの精神疾患の患者数は年々増え、四大疾病を上回っています。2008年の調査では、糖尿病237万人、がん152万人に対し、精神疾患は323万人でした。自殺者が非常に多い要因でもあります。

今回の講師、栄セツコさんは精神障害者とその家族の支援や精神保健ボランティア活動の研究と実践に長年取り組んでおられます。小中高校生への精神保健・福祉教育のプログラム等も開発されており、箕面市では小学校の出前授業などでお馴染みの先生です。以下は講演の概要です。

ストレスが限界を超えると人は心のバランスを崩します。心のバランスが崩れたとき、「こころ」「からだ」「行動」にSOSが表れます。こころのSOSはイライラ、落ち着きがない、抑うつなど、からだのSOSは不眠、胃痛、下痢・便秘など、行動のSOSは拒食や過食、ひきこもりなどがその例です。

思春期・青年期は子どもから大人への三大変化（体の変化、心の変化、社会的変化）の時期です。体の発育は目覚ましく、急速に大人らしい体つきになります。心の面では自分自身に目を向け、親離れして、それまでと違う価値観を身につけようとしています。自分を社会的存在として意識するようになり、したいことや求めているものを探し始めます。同時にこの時期は、義務教育を終え、進路を決め、社会に出ていくなど人生で最も変化の激しい時期です。心のバランスを崩しやすいともいえます。反抗、気分の動揺などは、程度の差はあれ、誰にでもみられます。大多数は一過性ですが、統合失調症の発病は10代後半から20代前半が最も多くなっているのです。周囲がSOSやその予兆を敏感に捉えることも大切です。

子どもの心を見守るポイントは、次の三つです。

- 自然な笑いがあるか。雰囲気壊さないよう周囲に合わせて笑っている場合もあります。
- 口数が以前よりはなだしく減っていないか。
- 小さなミス、小さな怪我や病気が続いているか。疲れているサインかもしれません。心の健康は休養で取り戻せることもあります。

中学生145名に対し、心身不調時の相談相手を調査したところ、74・5%は相談すると答え、相談相手は家族が85・2%、友人が62・0%、担任の先生は18・5%でした。家族・保護者の見守りの大切さを改めて認識させてくれます。同時に、子どもからのSOSに対する学校や行政の相談体制、支援体制の大切さを示しています。講演後のアンケートの中には『自分もあの頃SOSを出していたのだ』と思春期をふりかえる感想も散見されました。他人ごとではないのかもしれない。

（編集委員 長瀬尚）



教職員研修「心の教育」 発達障害の理解と対応

～子どもの

メンタルヘルスを考える～

平成27年（2015年）7月31日（金）

会場 らいとびあ21

講師 社会福祉法人北摂杉の子会

研修相談支援室・PASSO

副部長 大澤 佳世子さん

7月最後の暑い日、多くの教職員、保護者が参加して「心の教育」研修会が行われました。主な内容は、

○発達障害の概念の整理

○自閉症スペクトラムの特性理解と支援

○当事者からのメッセージ

○疑似体験

○ライフステージに沿った支援とポイント

（小中連携、成人期を見通した支援）

というものでした。

研修のまとめとして、特に強調されていたのは、次の3点です。

①家族や先生が問題を自分だけで抱え込まず、医療、相談支援、福祉等の専門機関と連携すること。

②子どもに早くから生きていく技術を獲得させ、将来の進路（中学、高校や就労）の幅を広げること。

③交通機関や買い物等、子どもが地域の社会資源をえるようにすること。



また、求められることとして、「発達障害への理解と支援」を指摘されていた。例えば、黒板の文字の見え方に次のような特徴のある子どもへの理解と支援が、私たちにはどこまで進められているでしょうか。

○黒板に文字が書かれると、新しく書いた文字だけ見え、その前に

書かれていた文字が消えて、見えなくなる。

○さらに文字が書かれると、追加された文字以外は、また消え、見えなくなる。

○この子はいつもこうした見え方をしている。

こうした子どもを含め、支援を必要とする様々な子どもたちに対し、講師の所属するPASSOでは、学校、地域、福祉、医療と連携し、各方面からの支援体制を取られています。

また、「地域の支援」という視点から、次のような課題も提示されました。

○通学路の見守りだけでなく、さらに広い支援をどう作るべきか。

○生涯を過ごす地域での、就労場所の確保

や、継続した支援をどうしていくべきか。「教職員、保護者だけでなく、地域での理解をどう広げるか」「地域で支援するために、私たちは何から始めればよいか」「今日聞いたことを多くの人たちに伝えるにはどうすればよいか」。これらのことを熱く考えた研修会でした。

（参加者の感想）

・発達障害の方と同じ見え方の疑似体験を初めてして、新たに分かったことが多かったです。

・10歳頃から就労を意識した支援が必要だと伺い、目が覚める思いでした。

・具体的な支援方法がわかりました。すぐに取り入れて行きたいです。

・当事者の映像中の「自分たちが受け入れてもらえる社会がほしい」という意見に、私たちの理解や支援がまだ足りない、ということを感じさせられました。

（編集委員 雑喉良）





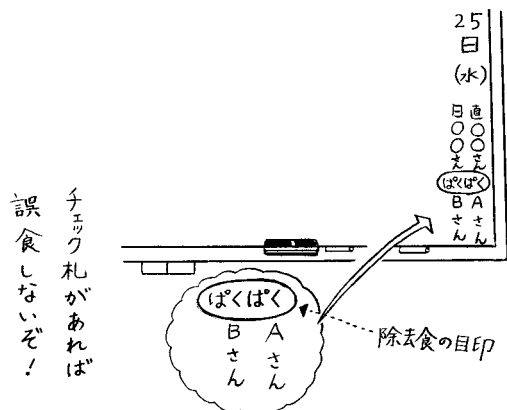
学校の取り組み「食育」 「みんなで協力すれば楽しくおいしく食べられる!」

「友だちに食べ物のアレルギーがある」とは、「他人事」ではなく「自分事」
「クラスみんなで考えよう!」

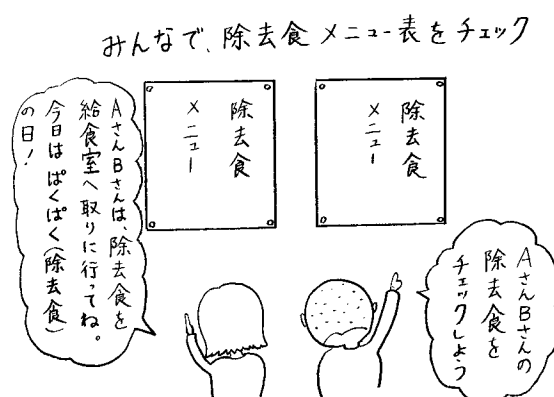
誰もが同じように
教室でみんなと一緒に
給食を食べることができる

そのために、クラスでは例えばこんな取り組みをしています。

- ① 黒板に除去食のチェック札を掲示し、
みんなで確認



- ② クラス掲示板上に除去食メニューを掲示し、
みんなで確認

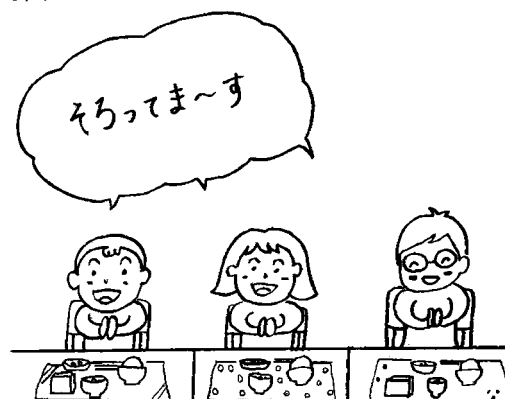


- ③ 日直が『いただきます』の挨拶をする
時に、みんなに呼びかけて確認



- ④ みんなで自分の給食が適切に配膳さ
れているか確認

みんなでチェック! みんなで食べる!



①～④をすることで、誤食をなくし、みんなで食べることができるよう、クラスで工夫をしています!



街の活動紹介 「ぴあぴあ食堂」

～らいとぴあ21～

ご存知ですか？ 箕面市萱野にあるらいとぴあ21（箕面市立萱野中央人権文化センター）を。

この施設の中には、子どもたちが気軽に来て遊べる「ぴあぴあルーム」という居場所があります。

長期休みになると、お弁当を持ってくる子、保護者からお金を渡されてコンビニでご飯を買う子、そして何も持たないでくる子がいきました。特に、毎日カップ麺ばかりで済ます子、ごはんを食べたくても持ってきていないから「いらんねん！」と強がる子どもたちが見られました。

そこで、ぴあぴあルームに併設してある厨房を使ってお昼ごはんの提供が出来ないかと考え、スタートしたのが「ぴあぴあ食堂」です。保護者がお金だけを渡して、このものお昼ごはんに関知しない状況よりも、100まーぶ（まーぶ／箕面市内で展開している地域通貨・100まーぶ＝100円）を渡して、「ぴあぴあ食堂で食べておいで」といえること。その方が、子どもたちにとっては、ちゃんと自分を見てもらえると考えるのではないかと考えました。

「ぴあぴあ食堂」の特徴は、子どもであ

れば、100まーぶで食べることが出来ることです。子どもたちが自分で稼いだ地域通貨まーぶで食べる事ができるので、お金を持つていなかったとしても、その日誰かのためになることをして稼げば問題ありません。

また、ご飯を作るのは、らいとぴあ21の周辺に住む料理が得意な人たちです。シェフ登録をもらって、毎回栄養や食材のバランスを考えながらメニューを作っていると思います。できるだけ安心な食材を使ったあたたかいご飯です。

現金で利用する場合は、子どもは300円になります。これが、地域通貨だと100まーぶで食べられるのには、市民のみなさんや、この仕組みに共感してくださる方の寄付によるものです。

日々大人と子ども、あわせて30食近くを提供するぴあぴあ食堂ですが、食材費とシェフへのちょっとした謝礼、そして光熱水費を合わせると収支はとんとんになります。子どもたちが100まーぶで食べれば食べるほど赤字になってしまふのですが、その分はみなさまからの寄付で成り立っている状況です。ぴあぴあ食堂で、子どもがまーぶを使って食べた分の食数×200円を子ども通貨会議（地域通貨「まーぶ」のサポート団体）が助成する形をとっています。

「ぴあぴあ食堂」を継続する手ごたえをス

タッフたちは感じています。

それは、「明日のぴあぴあ食堂のメニューはなに？」「明日食べるよ。」とぴあぴあ食堂を楽しみにしている子どもたちの声広がっていること。利用した子どもたちの保護者アンケートで「仕事をしているのでぴあぴあ食堂は本当に助かります。お弁当だと子どもの好きなものに偏ってしまいますが、野菜もとれるので感謝としかいえない。」「自分で仕事をして稼いだまーぶで食べられるので、仕事をする意欲につながります。とても楽しく仕事をします。ぴあぴあ食堂とてもおいしかったそうです。」「100まーぶで食べられるなんて驚きです。本当に助かります。子どもが稼いだまーぶで自分で食べられる。そのシステムがいなと思えます。」といった声をいただいていること。それが、この活動を継続していく自信に繋がっています。

「おいし楽し」の噂はさらに広がり、保護者の方や近隣の学校の教員も子どもたちと一緒にぴあぴあ食堂に食べにきてくれる日もできています。このようなしかけがもっと広がっていけばいいなと思います。

*地域通貨まーぶ

<http://www.ma-bu.org/>

*らいとぴあ21

<http://www.raipio.org/>

（編集委員 井原芳朗）

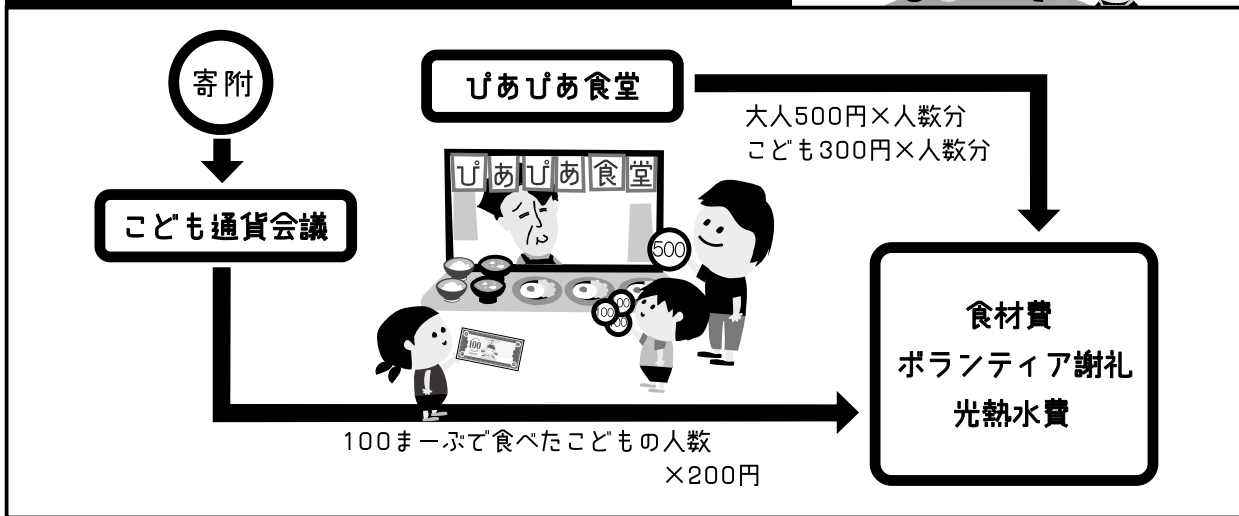
まーぶを使うと、1食あたり200円分の不足金が発生します。

その差額をこども通貨会議によせられた寄付金から補填することで、食材費や施設の光熱水費、またボランティアシェフの謝礼金などがまかなわれています。

こうしてぴあぴあ食堂では、「まーぶで手づくりのお昼ごはんを買う」ことができるようになっています。



<こどもが100まーぶで食べられる仕組み>



司書さんの

おすすめ本。



『ぼくのニセモノをつくるには』

ヨシタケシンスケ／作
ブロンズ新社 2014年

主人公のけんたには、しゅくだい、おてつだい、へやのそうじと、やりたくないことがたくさんあります。そこで、自分のニセモノのロボットをつくって、かわりにやってもらったことにしました。しかし、ロボットに自分のことを詳しく教えないとニセモノは作れません。けんたは、自分がどんな人なのか考えることにしました。まずは、「なまえとかぞく」からはじまり、「外見」「好きなもの」ときらいなもの「できることとできないこと」を考えていきます。そして、「周りの人から見た自分」や「自分の役目や居場所」「自分だけが知っている心の中」などについて考え、最後には自分らしさとその大切さに気づいていくのです。

この絵本は、校内の人権研修会で講師の方が「もちあじ」について話していたときに紹介していた本です。自分のからだだと気持ち、自分が今までに身につけてきたいろんなことすべてが、一人ひとりの「もちあじ」です。けんたは自分のニセモノをつくることで今まで知らなかった自分の「もちあじ」に気づくことが



『ええところ』
くすのき
しげのり／作
ふるしょう
よつこ／絵
学研教育出版

できたのです。ユニークでかわいらしいイラストですが、内容はとても深いものがあります。

けんたは自分のことをよく分析できていたけれど、みんながそのようにできるわけではありません。周りの人から言われて気づかされる部分も多いのです。

もう1冊ご紹介する『ええところ』は、そんな内容の絵本です。自分の悪いところばかりが見えてしまう主人公のあいちゃん、友達のもちやんに「手があったかい」ところが、あいちゃんのええところ」と教えてもらいます。それがきっかけで自分に自信がもてたあいちゃんが、自分のええところを人のためにつかい、自分や友だちのもっとええところ気づいていくお話です。

最近、なかなか自分に自信を持っていない子どもたちが増えてきているように思います。そんな子どもたちに自分を見つめるきっかけとして手渡したい本です。

菅野東小学校司書 原真麻

人権教育推進会議情報紙 はじけるころ

発行 箕面市人権教育推進会議 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010
 箕面市教育委員会 人権施策課 E-mail edujiinken@maple.city.minoh.lg.jp

ご意見、ご感想等ございましたら上記宛先までお寄せください。
 ホームページ <http://www.city.minoh.lg.jp/edujiinken/jinken/jinken.html>



..... キリトリ線 ✂

はじけるころ vol.40 はいかがでしたか？

今回は「あなたならどうする？」をテーマに記事を作成しました。『今、自分はどんなことを感じたろうか』『自分ならどんなことをするだろうか』ということを考えていただけたら幸いです。

みなさんのご意見、ご感想をお聞かせください。下記にご記入の上、ファックスでお送りいただくか、または、郵送またはメール（edujiinken@maple.city.minoh.lg.jp）にて、お送りいただいても構いません。今後もより人権教育に関心を持っていただくことのできる記事を掲載していきたいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております！

FAX 072-724-6010
 mail : edujiinken@maple.city.minoh.lg.jp

①ご意見・ご感想

②お名前（無記名でも構いません。）

③「はじけるころ」はどこで手に入られましたか？
 お子さんが持って帰ってきた・公共施設・その他（ ）

④はじけるころに掲載する場合がございます。 掲載 OK ・ 掲載不可

*頂戴した個人情報は、本誌のみで使用します。